

1.脳は遺伝じゃない

早期教育の祖 カール・ビッテってどんな人？

早期教育の祖ともいべき人物が今から約200年前のドイツにいました。その人物は、ロヒョウという田舎の村の牧師でした。この牧師は、一風変わった考えをもって、「幼子のときから適当な教育をしさえすれば、たいていの子どもは必ず非凡になれる」と、村人に説いてまわりました。ところが、当時は、才能は遺伝であって、後天的には変えることができないという考えが普通でしたので、誰も相手にはしませんでした。

「それならば」とその牧師は、言いました。「私に子どもが生まれると、その子どもの教育によってそれを証明しよう」実際、その牧師は、子どもが生まれると、それを実践しました。ところが、その子どもは生まれたとき、ふつう以下の子どもでした。彼は「どんな罪のために、神はこのような遅鈍な子を私に下さったのだろうか」と嘆きました。村人も、陰では「知的障害児」と呼んでいたのです。彼の妻も、「こんな子に教育しても無駄です」と言いました。しかし、彼は決してあきらめず、自分の信念に従って、この「知的障害児」のような子の教育を始めました。実は、この子どもが、後に偉大な学者となったカール・ビッテなのです。

カール・ビッテは、父からの早期教育によって、5才で30000（通常3000語以下）の言葉を学ぶことができたのです。そして、8才でドイツ語、フランス語、イタリア語、ラテン語、英語、ギリシャ語の6カ国語を自由に話せ、また、すべての学力にすぐれ、わずか9才でライプチヒ大学の入学を許可され、13才でギーゼン大学から哲学博士の学位を与えられ、16才のときには、ベルリン大学の法学部教授に任命されました。

このカール・ビッテを天才にしたのが、早期教育なのです。そして、この早期教育の記録は牧師の父によって『カール・ビッテの教育』という本にまとめられ、この方法を応用し、たくさんの方が生まれました。このカール・ビッテの教育は、まさに天才は遺伝ではなく、早期教育であることを示しているのです。

